

ちわいせき

2018

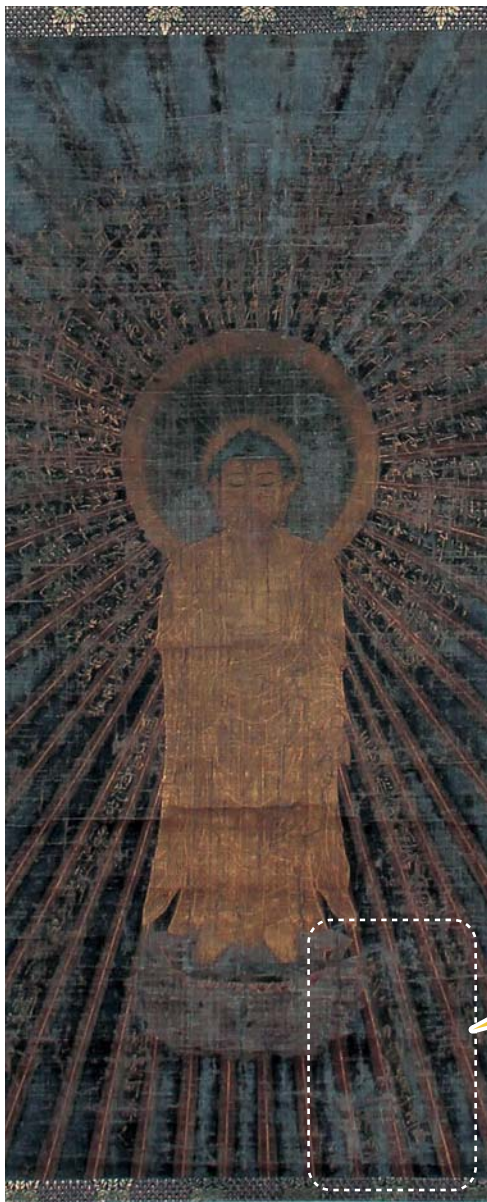
正月号

VOL.151

浄土宗西山深草派宗務所

総本山 誓願寺

謹賀新年



○絹本着色

四十八光真向弥陀ノ尊像

圓光大師 御真筆



正面に画かれた阿弥陀如来の足下、蓮台向かって右下に「元久二年（一二〇五）二月十五日 源空」という署名がなされているが、これは法然上人が七十三歳の時のもの。着衣には各種の幾何学文を截金で表現し、衣褶の輪郭はやや太めの截金が施されている。低い肉髻、肉髻珠を大きく表現するな



ど、全般的に鎌倉後期から南北朝時代の作風が顕著である。『法然上人行状絵図』巻二十六に画中画として描かれる阿弥陀如来立像との関連が窺える、貴重な作品である。

◆目次◆

- 新春を迎えて
- 賢問子行状記②①
- 迷子みちしるべ九
- お釈迦さまの十大弟子 11

●インド **ドタバタ** 夫婦道中記 ④⑤

●総本山誓願寺だより

●何でも“お寺探偵団” Vol.49

神田山 覚性院



明けましておめでとうございませう。

皆さまにおかれましては、つつがなく健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私は今年、九十六歳となります。足腰も不自由となり、車椅子での生活を送るようにはなっておりますが、皆さまのお力添えを頂き、お陰さまで御忌・西山忌等さまざまの法務を勤めさせて頂くことができますことを心から感謝しています。

わが浄土宗西山深草派の流祖西山上人は、念仏とは感謝の心であるとおっしゃっています。ああそうだったのか、ああ有り難いと思う感謝の気持ちに念仏そのものです。

私たちはいつも、いろいろ

なことに追われていて、なかなか平穏な日々を過ごすことができません。過ぎ去った平成二十九年も楽しいことや悲しいこと、煩わしいこと、さまざまのことがあったことでしょう。それでもまた、こうして新たな気持ちで平成三十年を迎えることができたことは、とても有り難いことだと思います。

阿弥陀さまの大慈悲心はいつも私たちを包んで下さっています。感謝の気持ちを、南無阿弥陀仏と声に出して日々をお過ごしされますよう、お願いいたします。

平成三十年 元旦

総本山誓願寺 第百弐世

彰空 泰淳 謹識

賢問子行状記

21

宝蔵寺住職 小島英裕

第十四話

「松宮氏、子を捨て親を養う」

中編

諸天善神のご守護でしようか。その日の朝、比叡山の乗慶阿闍梨は、お供の侍と仁和寺街道を通られたとき、子どもの泣き声を聞きました。

不思議に思い見てみると、卒塔婆と共に幼き子どもが捨てられていました。阿闍梨は涙を浮かべ、

「どんな邪険の者の仕業だろうか。しかし、卒塔婆を添えていることから、仕方なく訳あって捨てたのだな。連れて帰って育てなさい」

と、山の麓で乳母を付け育てました。その頃母親は、泣く泣く家へ帰ると、老父は目を覚まし、

「孫は、まだ起きないのか？」と何度も聞くので、

「今朝は調子が悪い様子で、まだ寝ております」

と答えましたが、言い訳は長く続きません。ついに老父は孫の様子を見に行こうとしました。妻は、もはや隠し切

れないと、正直にいきさつを語りました。「夫の遺言を守るため、仕方なく捨てました！」

老父はいきさつを聞くと、驚き悲しみ、「孫を捨てたのは私を養わんとする為だったのか。長生きするのは恥だ。所詮、私が長生きしても仕方がない」と、それからは水も食事も喉を通らず、息子と孫を失った悲しみから精力が尽き、ほどなく亡くなりました。

妻は、気が触れたように、夫と別れ、子を捨て、老父と死に別れ、

「こうなったら尼になって夫の菩提を弔い、子どもの行く末を尋ねてみよう」

と諸国巡礼の志を持ちました。

その中でも洛陽の誓願寺の阿弥陀さまは、以前よりよく聞いていた靈驗あらたかなお寺です。まず誓願寺へ参詣し、ご本尊さまを拝みました。

「婦命頂禮西方阿弥陀仏。私は人より不運な者。これから巡礼の旅に出ます。夫の後生をお救い下さい。そして捨ててしまった我が子に、この世でもう一度巡り会わせてください！」

首から掛けた頭陀袋に、卒塔婆の歌を書いて旅立ちました。しかし、どこへ行くとも知らず、迷い行く姿は哀れなものでした。

その頃、乗慶阿闍梨は、拾った子どもを育てられました。そして、子どもが十歳の春を迎えた時、

「お前は以前、仁和寺街道に捨ててあるところを、宿縁あつてここまで育てたのだ。父親も母親も居ないので、私を師匠とも親とも思っていただろう。この卒塔婆はお前に授ける。この歌の言わんとする事を感じ、常にこれを父母だと思い、可能な限り学問に励み、両親の菩提を弔うのだ」と熱心に言い聞かせました。学問は十を聞いて千を知るほどの秀才で、その能力が讃えられ、師の乗慶の一字を戴き、名を「乗俊」と名付けられました。

乗俊は、

「私の師匠の恩は広大無辺です。父母に捨てられたとは言っても、今は構わない。しかし、両親が生きているか死んでいるかも知らない。もし、生きているのであれば、一度会わせてください。伝え聞くに、当山の恵心僧都も、母親のために誓願寺の御本尊さまを敬われたと聞きます。師の乗慶阿闍梨も信仰された誓願寺の阿弥陀さまを私も信じ、一目でも両親に会えるように願を掛けよう」

と誓願寺に参詣し、一心に祈りました。

(つづく)



らくちゅうらくがいずびょうぶ え
『洛中洛外図屏風絵』画 中川 学（部分）

誓願寺の山門、向かって左手に立つ石柱を
ご覧になられたことはありますか
『迷子のみちしるべ』というこの石柱の
正面には、「迷子みちしるべ」、右側には
「教ゆる方」、そして左側には「さがす方」
と刻まれています。江戸の末期から明治
にかけて、迷子が深刻な社会問題となり
つつあった時、この『迷子のみちしるべ』
は建立されました。当時はまだ警察がな
かったため、迷子や落とし物を探す人は
この『迷子のみちしるべ』を頼りに、その
名前や物を記した紙を左の「さがす方」に
貼り、見つけた人が反対の「教ゆる方」に
紙を貼って、情報交換をしていたのです。
現在の石柱は明治十五年に建立されたも
ので、仲人役を担う石ということから、
『月下氷人石』や『奇縁氷人石』とも呼ば
れ、尋ね人の縁をたくさん繋ぎ、助けとな
ったのです。ところで、この『迷子のみち
しるべ』はなぜ誓願寺の門前に建立され

たのでしょうか。

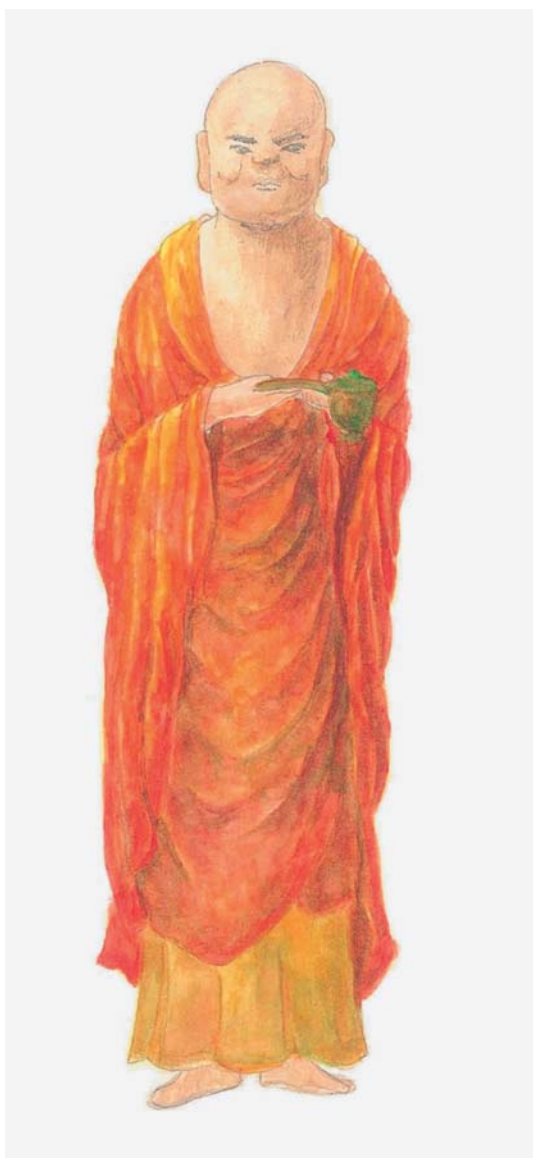
それは誓願寺が、『誓願寺縁起』や現在連載
中の『賢問子行状記』に、父子や母子の再会の
物語が記されている様に、迷い人の標となっ
た場所であったからに違いありません。また、
平安時代の歌人和泉式部は、我が子を失った
悲しみから救いを求め、誓願寺の阿弥陀さま
のもとでお念仏をし、極楽往生を遂げまし
た。この様に、迷い苦しみの中にある人びと
が、阿弥陀さまの救いに気付かせて頂ける場
所なのです。

辛く苦しい時には、誓願寺の阿弥陀さまに
手を合わせ、お念仏を称えて下さい。阿弥陀
さまは常に、私たち迷子の「みちしるべ」とし
て、導いて下さいます。

結縁寄付のご案内

ただ今誓願寺では、
寺宝修復に向けた、
結縁寄付を募集して
おります。

詳細をご希望の方、
またご協力頂ける方
は、菩提寺までお問
い合わせ下さい。



説法第一の富樓那尊者

お釈迦さまの
ご生涯
外伝

お釈迦さまの十大弟子

11

絵・豆田織奈 文・釈尊法話会

説法第一の富樓那尊者 その1

お釈迦さまの十大弟子のうち、説法第一と言われるのが、富樓那尊者です。説法とはお釈迦さまの教えである法を説くこと、現在ではお説教、法話な

どと言われております。我が宗派ではお説教の講習会をする際、毎回富樓那尊者を讃え、「富樓那尊者説法自在哀愍護念」とお参りします。皆、富樓那尊者のような素晴らしいお説教ができるように、富樓那尊者のように、お釈迦さまの教えを広められるようにと。

富樓那尊者の父は、お釈迦さまの父である浄飯王の国師をしておりました。富樓那尊者は幼少の頃より学問に長じており、弁舌は立て板に水のごとく、流暢で軽やかでした。

「私の父は浄飯王の国師として王さまを助けた。私も出家なされた太子のために助けとならなければ。その為には私も修行をせねばならない」

そのように決意すると富樓那尊者は二十九人の友人と共に出家し、沙門となり、ヒマラヤの山中で修行をしました。

やがて、悉達太子が覺りを開かれ、お釈迦さまとされたことを聞きました。共に出家した二十九人の友人と一緒に、お釈迦さまの弟子となりました。

(つづく)



疲れを癒した二日(二)

道路の東側はぼつりぼつりと民家があり、西側は緑もな
い荒地に土と煉瓦で造った
高さ一五メートル程の迎仏塔
が立っていて、しかも簡素な
案内板がポツンとあるだけの
場所に三人を案内した。だが
田中君は後で、とても感動し
たと僕に話してくれた。人間
として初めて悟りを開いた釈
尊から、どれ程の素晴らしい
説法を聞けるだろうかと、五
人の出家者とサルナートや
近在の人たちが今か今かと待
ちわびて、急いで見張りの塔
まで建てたかを想像し、彼は
感動し歓んだのだろう。

その夜の食事は、ヴァラナ
シの町に出てビールのにおいて
あるレストランを探し、たま
たま日本通のオーナーの店で、
インド音楽のライブもあった
のだが、演奏は店の入り口、
僕たちの席はビール瓶が見え
にくいように、一番奥の席に
通されたので、演奏よりも、

オーナーを交えて話に花が咲
き、折角のライブはほとんど
聴ける状態ではなかった。

ヴァラナシでの最後の夕食
は、ささやかにビールを二本
と、カレーやラーメン、焼き
ソバと、インドと中国の料理
が共存し、店のオーナーも加
わり話も大いに盛り上がり、
値段も三八〇ルピー(約九五
〇円)で格安に終わった。ホ
テルに帰り、フロントで翌朝
八時過ぎに、祇園精舎のある
村、シユラヴァステイに向か
うようにタクシーを予約し、
それぞれの部屋に戻って眠り
に就いた。

三月三日(日) 目覚まし時
計に起こされ、素早く身支度
を整え、ホテルの薄暗いレス
トラン(節電のため安ホテル
や小さなレストランでは日中
に灯りをつける所はない)で
軽い朝食をとり、チェックア
ウトを済ませタクシーが来る
のを待った。二泊で一部屋四
五〇ルピー(約一〇〇円)
だった。このホテルはチェッ
クインの時に思ったとおり、

建物こそ新しくはないが、
ちゃんとした対応をしてくれ、
英国の影響を受け継いでいる
のか、年配のフロントマンは、
服装もキチツとしており、品
のある立ち居振る舞いを僕は
感じ取った。思うに良心的な
ホテルとそうでないホテルの
違いは、前者は客からの注文
には適切な対応をとり、余計
なことは勧めないが、後者は
言葉巧みに色々な誘い文句で
客に勧めるのである。今回
ヴァラナシに二度来て、両極
端の面を垣間見られたのは、
僕にはとても良い経験になっ
たと今更(いまさら)に思う。



チャウカーンディ・ストゥーパ(迎仏塔)
サルナートの町はずれ

総本山誓願寺だより

節分会

平成三十年二月三日 (土)

大般若転読会

無病息災・心願成就・芸道上達等、皆様のお願いを仏さまに祈願致します。

●午前十時～十二時
●午後三時～四時



日本舞踊・長唄奉納

午後一時半～

- 一、勸進帳
- 二、お染久松
- 三、鷺娘
- 四、鞍馬山

出演 日本舞踊・長唄桜流
桜富寿佐 桜流門弟
誓願寺僧侶
※ハンカチまき有り

豆まき

午後二時～



扇塚法要

古くなった扇の供養をいたします。

おもな行事予定

一月

- 一日(元旦) 修正会
- 十五日(月) 六阿弥陀功德日
- 二十四(水) 法然上人追慕念仏行脚

二月

- 三日(土) 節分会
- 八日(木) 六阿弥陀功德日
- 十五日(木) 涅槃会

三月

- 十四日(水) 善導忌
- 六阿弥陀功德日
- 十八日(日)～二十四日(土) 春彼岸
- 二十五日(日)～四月四日(水) 法脈相承

クイズコーナー

【問題】

お釈迦さまの十大弟子で、お釈迦さまの父親の名前は何でしょうか？漢字三文字でお答えください。

○○○

官製はがきに、答え、郵便番号、住所、氏名、電話番号、菩提寺(だんな寺)、感想や質問を必ず書いてご応募下さい。その中より紙面に採用させて頂くことがあります。掲載時には、はがきにてご連絡差し上げます。名前の掲載が困る方は、その時にご返事下さい。今回は、覚性院さまよりお手製腕輪念珠を5名さま、本山謹製線香を5名さま、合計10名さまに抽選して差し上げます。ご応募お待ちしております。

【宛先】〒444-1350

愛知県岡崎市本宿町東木竹十六番地
欣浄寺内 ちかい編集係

答え ○○○○
郵便番号
住所
氏名
電話番号
菩提寺(だんな寺)
感想・質問等

【締切】一月三十一日
(消印有効)

ちかい 第151号

発行日 平成二十九年十二月五日
発行所 浄土宗西山深草派 総本山誓願寺
京都市中京区新京極桜之町四五三番地
電話 (075) 221-0958
FAX (075) 221-2019
E-mail info@fukakusa.or.jp
URL http://www.fukakusa.or.jp

お寺探偵団

かくしゅういん 覚性院

Vol.49

何でも



今回は「神田山 覚性院」を訪ねました。

profile

中村 秀師

(覚性院 第20世)
昭和33年4月5日生 59歳
西山短期大学卒業後、会社員として勤務。
平成3年に晋山し、住職となる。

Q1

お寺の歴史をおしえてください。

創立は定かでは有りませんが、慶安年間(1648~1652)

Q2

お寺の宝物を教えてください。

に長空松譽上人が開山し、西浦町の秋葉山に当寺が建立されました。そして、大正8年(1919)、現在の場所に移されました。また平成23年には、檀信徒や地域の方々のご尽力により、庫裏の建て替えが行われました。

寛政3年の校翁學道上人代

に、地域の方々により寄進された涅槃図が有ります。他には、

毎年1月7日に御開帳している善光寺如来や、毎年11月7

日に御開帳している薬師如来などが有ります。本堂の隣には

Q3

お坊さんとしての心がけは?

常日頃より檀信徒の方々に対して誠実に法務を務めることを心がけています。

Q4

「ちかい」の読者に何か頂けませんか?

以前は自宅でのお年忌などの法事が多かったですが、最近ではお寺で勤めさせて頂くことが増えて参りました。また、最近ではお寺巡りや御朱印集めなどが盛んで、お寺に足を運ばれる機会もあると思います。が、まずはご本尊さま、そしてご先祖さまをお参りしていただければと感じております。

覚性院お手製腕輪念珠を5

名さまに差し上げます。

【交通】

名鉄西浦駅より徒歩5分

【主な行事】

- 七草会 1月7日
- 涅槃会 2月15日
- 春彼岸会 春分の日を挟んだ前後3日間
- 祠堂施餓鬼 4月8日
- 盆施餓鬼 8月3日
- 秋彼岸会 秋分の日を挟んだ前後3日間

【お問い合わせ】

覚性院
〒443-0105
愛知県蒲郡市西浦町北馬相11
電話 0533-57-2461



薬師如来



善光寺如来



本堂



十王堂